



# 三到図書館 ニュース

2016年4月発行  
No.78

J. F. Oberlin University Library

◇巻頭メッセージ

◇教員からのメッセージ

◇図書館資料紹介

◇読書運動プロジェクト

◇図書館からの報告

◇図書館からのお知らせ

## 📖 巻頭メッセージ

### 学生時代だからこそできること

グローバル・コミュニケーション学群学類長 李 恩民

私は中国の大学で歴史、特に世界史と中国の歴史を学んでいました。私が高校生の時は受験勉強がとて大変だったので、読書する時間がほとんどありませんでした。だから大学時代はたくさん本を読みたくて、図書館に行って古典・名著をかたっぱしから読破しました。例えば中国の古典…『三國演義』『水滸伝』『紅樓夢』などは全部読みましたし、西洋の古典、例えばシェイクスピアの戯曲も原文でたくさん読みました。

新入生のみなさんも大学時代にできるだけたくさんの古典・名著を読んで知識を得ることが重要です。現代は私が大学生の頃とは全然違う大量の情報が行き交う情報化社会です。うっかりしていると情報に流されて自分を見失いかねません。だからこそ情報に流されないよう、できるだけ多くの知識と教養を得たほうが、結局後になってから人生の役に立つのです。

勉強のほかに他人と積極的に交流することも重要です。現在の学生は友だちと交流することばかり気にするようですが、大学時代こそおとな（教師や職員）と交流するべきですね。オフィスアワーの時間に教員のオフィスを訪ねる、話をする、大学で開かれるシンポジウムや講演会、交流会に参加する、これらはみな大学生だからこそできることです。例えば教員のオフィスを訪ねて英語・中国語・日本語の練習をしましょう。これもみなさんが大学のキャンパスにいてこそできることです。失敗を恐れぬください。失敗のない成長なんてあり得ません。私たちもたくさんの失敗を重ねておとなになりました。

私は英語、日本語を学びましたが、言葉が喋れるだけで中身が薄いと会話は続きません。その中身こそ知識と教養、情報であり、これらを修得するための最も簡単で有効な方法が読書です。でも心配しないでください。最初から知識や教養に溢れた会話が

できる人なんていません。例えば、まずは自分の得意な分野の知識を深めて、会話の材料にしてみてもいいのではないでしょうか？ 日常会話ができるだけではコミュニケーションは深まりません。

私は中国と日本、そしてアメリカの大学で学んだ経験があります。ひとつ気がついたことは、日本と



中国の大学は、基本的に「専門知識のある教師がその知識のない学生に向けて講義する」という形式を取りますが、アメリカの大学は教師と学生が対話する形式が多いです。だから学生は「専門知識のある」教師と対話ができるようにしっかり予習し、とりあえず関連する知識を吸収して授業に臨みます。ということは、みなさんも講義の前にテキストに目を通し、講義の後にその日に学んだことをもう一度考えるという習慣をつけたら、きっと大学の講義がよくわかって学びも深まるし自分も成長できますよ。

グローバル・コミュニケーション学群は語学、コミュニケーション、リーダーシップを中心に学ぶ学群です。語学力をアップするにはとにかく外国語をたくさん読むこと、聞くことです。発信力を鍛えるだけでなく、発信する中身も身につけましょう。そのためには学生時代に本を読む、新聞を読む、いろいろな人びとと交流する、問題意識を持って考える、自ら行動する。そうすることによって語学力とリーダーシップ、発信力を高めて実社会へ飛び出して行ってください。そしてグローバル・コミュニケーション学群だけではなく、すべての学群、大学院の学生も同様に、学生時代に学びを深め成長していくことを期待しています。

## 大学生活は宝探し

グローバル・コミュニケーション学群准教授 石塚 美枝

グローバル・コミュニケーション学群開設にあたり、石塚先生にインタビューさせていただきました。



4月からグローバル・コミュニケーション学群（以下、GC学群）がスタートし、第1期生が入学します。石塚先生が高校生だった頃、大学にどんなことを期待していましたか？

私は高校生の頃、大学では英語を学びたいと思っていて、英語を専攻する学科に進学しました。でも、ただ英語を学ぶだけではなく、大学生になったら時間を自由に使えることに期待していました。高校は時間割が決まっていますが、大学では時間割も自分で決められるし、授業に出るのもサボるのも自由、全部自分で決められます。もちろん授業をサボったらその分取り返さないとはいけませんよ。時には映画館や美術館へ行ったり、キャンパスの周りを散策したり、好きな本を読んだりしていました。勉強以外にサークル活動やアルバイトもやりましたし、そこで出会った友人たちとは今でも交流が続いています。

私はもともと英語専攻でしたが、途中で日本語教育に興味を湧き、日本語教師の資格を取ろうと思ってそちらの勉強も始めました。私が学生だった頃は日本語教育の制度が整い始めてきた頃で、日本語教育を学べる大学院もわずかでした。でも幸い先生方の後押しもあり、結果的にはこの分野へシフトすることができました。



新入生はこれから高校生から大学生になるわけですが、かれらは学生時代にどんなことを学んだらいいでしょう？

学生は大学で自由な時間を作り出すことができます。その自由な時間をどのように過ごすか、自分が学びたいこと、したいことは何か、それを少しでも早く見つけられたらいいですね。それにはインプットを増やすことが大切です。今はまだわからないと思いますが、学生時代は自分の中に知識や教養を増やす絶好の機会です。例えば一年間にできるだけ多くの本を読む、新聞を一年間毎日読み続ける、大学で開催されるシンポジウムやイベントに参加する、たくさんのアルバイトを経験する、そういうことを続けるだけでも大学生活が本当に豊かになりますよ。

知識や教養を身につけるためには、狭くて深いア

プローチ、広くて浅いアプローチの両方を試してみるというでしょう。自分が本当に好きなことを深く掘り下げて追求していると、いつか何処かで誰か同じような嗜好の人と出会えます。またいろいろなことにさらっと触れてみると、広くて浅いアプローチですがみなさんの世界は広がります。結局どれだけたくさんの引き出しを、自分の中に持つことができるか、ということが後になってとても重要になってきます。



大学でコミュニケーションや外国語を学びたいという学生も多いと思いますが、どのようにして学んでいけばいいのでしょうか？

言葉というのは道具です。もちろんきれいな発音で流暢に喋れたらすばらしいですが、英語でも中国語でも日本語でも、その会話の中身が豊かであればあるほどコミュニケーションは深まります。みなさんが大学図書館を利用して本や新聞をたくさん読んだり、イベントに参加したり、インプットを増やして、それから自分で考え、いろいろなことに興味を持つことで知識が豊かになり、コミュニケーションも洗練されていくはずですよ。

私は、コミュニケーションは学ぶよりも体得するものではないかなと思います。自分とは違う他人に興味を持って交流することで、コミュニケーション力は高まっていくと思います。とはいえそれができる人はいいのですが、できない人や苦手な人は困りますよね。でも友人が多いこととコミュニケーション力が高いということは、全く同じではないと思います。数が少なくとも深く付き合える友人がいれば、それも立派なコミュニケーション力ですよ。



最後に学生たちにメッセージをお願いします。

大学生活は宝探しのようなもの。思わぬところに宝物がたくさん埋まっているので、楽しくどんどん見つけて自分の宝箱をいっぱいにしてほしいですね。

## グローバル時代の図書館利用

「グローバル化（グローバル化）」という言葉は辞書や事典で調べてみると次のように記されています。

## グローバル化 [globalization]

⇒国家などの境界を越えて広がり  
一体化していくこと。  
特に、経済活動やものの考え方  
などを世界的規模に広げること。  
グローバル化。  
(『デジタル大辞泉』)

⇒冷戦終結後、市場経済が世界的に  
拡大し、生産の国際化が進み、資  
金や人や資源や技術など生産要素  
が国境を越えて移動し、貿易も大  
きく伸び、各国経済の開放体制と  
世界経済の統合化が進む現象。  
(『現代用語の基礎知識2015』)

「グローバルな視点」という言葉は、なんとなく「世界的な、広い範囲で物事を見る」といった感じなのかな？という印象ですが、辞書・事典できちんと調べてみると、このような意味があることが分かります。

桜美林大学図書館では約53万冊の図書（学術製本雑誌含む）、約15,000点の視聴覚資料、約6,000種類の雑誌を所蔵し、学生や教職員に提供しています。今回はそのほかに学習に役立つオンラインデータベースや電子ジャーナル、電子書籍の一部をご紹介します。

大学の学びで特徴的なのは、レポートや論文などある程度の分量の文章を書く課題が頻繁に出されることです。みなさんがレポートを書いて提出する時には、事項やデータをネットから適当に引用するのではなく、きちんとした辞書、事典、統計などから引用することを早くから意識しましょう。例えばオンラインの辞書・事典は次のものが利用できます『JapanKnowledge Lib』は図書館のホームページからアクセスするだけで『日本大百科全書』『現代用語の基礎知識』『日本国語大辞典』などの各種事典・辞書などを簡単に検索できます。英語が得意な人には『Britannica Online Japan』はいかがでしょうか？おなじみブリタニカ国際大百科事典のオンライン版。その他『研究社Online Dictionary (KOD)』、『Oxford English Dictionary Online』もあります。

レポートや論文  
には、「辞書・辞典」  
をオンラインで  
活用しましょう！



グローバルな視点  
は「新聞」から。  
オンラインで選んで  
検索できます！



グローバルな視点を養うには、ネットだけでなく新聞記事から社会の動向を知ることも重要です。図書館のホームページからは下記4種類の国内新聞のオンライン記事データベースが使えます。『聞蔵II ビジュアル』（朝日新聞）は1879（明治12）年の創刊号から最新の朝刊までの記事を検索し、読むことができます。『ヨミダス歴史館』（読売新聞）は1874（明治7）年の創刊号からの新聞記事や、『Daily Yomiuri』、人物データベースも利用可能。『毎索』（毎日新聞）は1872（明治5）年の創刊号から最新の朝刊までの記事を取録。『日経テレコン21』（日本経済新聞）は、経済・ビジネス情報に特化した専門紙の記事データベース。記事のほか企業情報、市況情報などを読むことが出来ます。

『ProQuest Central』は、人文社会科学から自然科学までのフルテキスト約10,000誌、新聞フルテキストは世界主要紙500紙以上、様々な分野の学術雑誌や新聞を提供する巨大データベース。『LexisNexis at lexis.com』では世界各国の法令・判例などの法律情報、ニュースや企業情報を調べることができます。

近年は図書や雑誌がどんどん電子化されています。『Net Library』はeBook（電子書籍）提供サービスです。『Cambridge Journals Online』ではイギリスのCambridge University Pressから出版されている学術ジャーナルを全てオンラインで読めます。『JSTOR』、『Springer Link』は電子ジャーナルのアーカイブ（バックナンバー含む）を分野別コレクションで提供しています。

電子化された  
図書や雑誌、  
学術ジャーナルも  
オンラインで  
読めますよ！



これらのデータベース類は図書館のホームページからアクセスできます。学内限定と学外からアクセス可能なものがあります。豊富な図書、雑誌資料と同様、みなさんのこれからの学習のために有効利用してください。

(図書館メディアセンター 課長 佐々木 俊介)

## 読書運動プロジェクト

## 2015年度 図書館読書運動プロジェクト活動報告



2015年度の図書館読書運動プロジェクト（以下、読プロ）は、前年度よりもさらに活動のフィールドを広げました。メンバーの人数が増えたこともあって、読書会やミーティングは毎週のように頻繁におこなわれ、他大学の学生との合同読書会や、前年から広がりつつあった相模原市立相模大野図書館とのコラボレーション企画等もさらに広がりを見せました。図書館内の読プロ棚での企画（読プロメンバーで決めたテーマごとのおすすめ本の展示と紹介）は、春学期の始めに『大学生生活Q&A』、夏休み前に『妖怪の世界』、1月に『本の福袋』というように、数回おこなわれました。こちらは、立ち止まって本を手取る学生が多く好評です。7月には、帝京大学学生共読サポーター、白百合女子大学図書館サポーターLiLiaとの合同読書会（齋藤環『関係する女 所有する男』）を開催しました。秋から年末にかけては、学園祭への出展（出店）、コメント大賞表彰式&トークショーと、大きなイベントもおこないました。

ここで、主な活動を簡単に紹介したいと思います。

前年には相模大野図書館とのコラボ企画がありましたが、今回は、相模原中等教育学校の図書委員の生徒と、相模大野図書館、読プロの3者がコラボした企画が実現しました。この企画の目的は、大学図書館と公共図書館の距離を近いものにし、学生の図書館への関心を高めること、そして図書館の利用を増加させることでした。コラボ企画の内容は、相模原中等教育学校の生徒に本の紹介のPOPを作成してもらい、図書館等でそれを掲示して投票をおこなう、というものでした。7月にPOP講座&座談会を開催して、作成されたPOPは、秋学期に図書館の入口付近に掲示して来館者に投票してもらい、12月に開催したコメント大賞表彰式&トークショーにおいても紹介しました。この企画は年間を通しておこなわれ、8月5日の神奈川新聞にも記事として取り上げられました。

10月31日～11月1日の2日間に開催された桜美林大学学園祭には、前年に引き続き出展しました。今回は「読プロ横丁よみな祭」として、縁日形式の出店をしました。縁日の屋台として「古本市・射的・カルタ・くじ」の4種類の出し物を制作して、2日間での来場者数は112名になりました。読書推進として、縁日の景品を古本にして配布しました。読プロメンバー1人1人が来場されたお客様とふれあったり、お客様に合いそうな本をオススメしたりと、充実感のある学園祭になりました。

毎年恒例で1年間の最大のイベントであるコメント大賞表彰式と作家さんをお招きしてのトークイベントは、今年度は2015年12月4日（金）に開催しました。『100回泣くこと』『デビクロくんの恋と魔法』などの著作で有名な作家の中村航先生をゲストとしてお招きして、コメント大賞表彰式の後にトークショーをおこないました。今回は、課題本であった『星に願いを、月に祈りを』に出てくる「星空放送局」になぞらえて、“ラジオ風トークショー”という形に挑戦しました。パーソナリティーを務めた2人の読プロメンバーが、中村先生へ様々な内容の質問を投げかけました。会場の来場者をリスナーと考えて、問いかけるかたちで、「犬それとも猫、あなたはどっち派?」「あなたはどっちが聞きたい? 中村航先生の…初恋 or 武勇伝」といった質問から始めて、課題本となっていた『星空放送局』の内容などについて質問



相模原中等教育学校の生徒が作成した力作のPOP



中村航先生を招いて開催したラジオ風トークショー

していきました。中村航先生も、「こういうトークショーは初めてですね」と喜んでくださっていました。

ここ数年は、読プロメンバーも人数が多くなってきたので、イベントの準備・広報、当日の役割分担（司会、受付、進行等）は、積極的におこなわれました。少々のトラブルなどはあったものの、大盛会のコメント大賞表彰式&トークショーとなりました。

読プロの学生たちは、2016年度の活動では、さらに新たなことを企画しているようです。興味を持った学生のみなさん、ぜひ参加してみてください。



中村航先生とコメント大賞受賞者との記念撮影

## リベラルアーツ学群 4年 山下 陽平

大学生へ読書習慣を広めようと活動しています。と言っても活動は堅苦しいものばかりではなく、メンバーで読書会をしたり生協さんや図書館さんと協力して読書に関係したイベントを催したりしています。昨年は2年連続となる学祭にも縁日をコンセプトに出店し、出し物や景品の本を通じてお客さんと楽しい時間を過ごせました。まだ色々若い団体ですのでみんな手探りでやっていますが、よければ一度見学にお越し下さい。

## リベラルアーツ学群 3年 徳田 千秋

読プロでは毎年、作家さんをお招きして貴重なトークイベントを行います。自分たちの力で1から企画を練り上げ、作家さんにもお客さんにも楽しんでいただけるような最高のイベントをつくりあげます。それは非常に険しい道のりです。しかしだからこそ、イベントを成功させた時の達成感はとても大きく、私たちは一回りも二回りも大きく成長していることに気づきます。あなたもそんな経験をしてみませんか？

## リベラルアーツ学群 2年 佐久川 祐子

1年生の4月から読プロの活動に参加していますが、皆さん真面目で個性的。読書会もお昼のミーティングも面白いです。新しい視点から本を読むことができる、そんな読プロを今年も満喫したいと思います。

## 総合文化学群（2016年3月卒業） 酒井 明砂子

4年間読プロで活動して、感じたことがあります。大学は、何事もなくただ普通に過ごすこともできるけど、何かしたいと思ったとき、自分で行動を起こせば、様々な方が協力の手を差し伸べてくれて、求めた分だけのものが返ってくる場所だということです。自分は読プロを通して、教職員の方や、時には学校外の方に助けられながら、やりたいことを実現してきました。新入生のみなさん、何かやりたいと思ったら、誰か周りの人に相談してみてください。案外、共感して協力してくれる人は多いものです。その相談する場所が読プロだったら、ちょっと嬉しいです。

ツイッター、フェイスブックでも検索してみてください。

twitter Twitterアカウント @obirin\_reading

facebook 桜美林大学図書館読書運動プロジェクト

(図書館メディアセンター 担当係長 三上 彰)

## 読プロと歩んだ4年間



2016年3月に卒業した酒井明砂子(あさこ)さん(総合文化学群音楽専修卒業)、山中きりんさん(リベラルアーツ学群卒業)は、1年生の時から図書館読書運動プロジェクト(以下、読プロ)学生委員として4年間活動してきました。卒業を控えた時期に、4年間の読プロ活動や学生生活について語ってもらいました。

### 一ふたりが読プロに参加するきっかけは何でしたか？

**酒井：**私は高校時代にあまり本を読んでこなかったのですが、大学生になった時に「ちょっとこれじゃまずいかも」という危機感を持っていました。ある日、図書館で読プロメンバー募集のポスターを見て、図書館員さんから説明を聞いて参加することにしました。

**山中：**私も図書館でポスターを見ていました。私は小学校からずっと図書委員だったので、大学でもそんな活動ができるんだ、と思っていたら図書館員さんに声をかけられて、それで参加することになりました。

**酒井：**ところが参加してみたら、なんと先輩がいなくてびっくり！(笑)

**山中：**たまたま前年度で先輩たちが活動から抜けちゃってたんだけね。

**酒井：**でもそのうちに2年生の頼れる先輩が何人も活動に参加してくれて、そこから私たちの活動も本格的になったと思います。

**山中：**読プロは、学生～教員～職員～大学生協の四者が協同する委員会形式なので、他にサークルに入っている人も多そうですね。私も読プロ活動のほか、演劇サークルに所属していました。

**酒井：**私はエレクトーンサークルで4年間がっちり活動しました。

### 一読プロではどんな活動をしてきましたか？

**酒井：**私たちは、読プロでは図書館の棚を使って季節ごとにオススメ本企画をしたり、小説家の方を呼んでイベントや読書推進の活動を続けてきました。

**山中：**図書館の職員さんたちが、私たち学生に本を選ばせてくれたり、展示棚を提供してくれたので、いろいろなことにチャレンジできました。自分が選んだ本が借りられると「どこかの誰かが私のオススメ本を読んでくれた！」と嬉しくなったりしてね。

**酒井：**大学生協の読書マラソンコメント大賞をベースにした、桜美林コメント大賞の選考会と表彰式イベントの企画運営も大変だけど楽しかった。読プロ代表だったときは授業との両立が大変でもう倒れそ

うでしたよ(笑)

**山中：**小説家の方をゲストでお招きしてのトークイベント！プロの小説家が目の前にいてお話できちゃうなんてすごいことです。誰をゲストで呼ぶかというのも学生が決めるんですよ。小説家の情報についても、たくさんのコネクションを持っている大学生協の方々に面倒をみていただきました。

**酒井：**それから大学の先生たちと読書会をしたり、読書イベント参加のお願いに伺ったり、そんなことをいつもやっていたような気がする。気がついたら1年終わっていたみたいだね。

**山中：**そうそう、読プロといえば読書会！仲間と読書会をするのが楽しかったですね。本をひとりで読むけれど、その本を読んで感じたこと考えたことを読書会という場で、読書好きの仲間と語り合ったり議論したりするのが本当に楽しかった。とても充実した時間でした。

**山中：**同級生だけでなく先輩も後輩も、時には教授もいっしょにああでもないこうでもないで激論戦わせて…読プロのメンバーはみんな個性的なキャラばかりだし(笑)これを読んでいる新入生にもこの楽しさを知ってほしいです。

### 一新入生たちに向けてひとことお願いします。

**酒井：**学生時代は友だちを作るのも大事ですが、先生や職員さんなど大人の方々と付き合えるよい機会です。4年間なんてあっという間、勉強やさまざまな活動など、できるだけたくさんの方に挑戦してください。

**山中：**どんなに小さくてもいいから、自分が居られる場所を見つけてください。私の場合はそれが読プロと演劇でした。これから始まるみなさんの学生時代が、充実したものになりますように！

(取材日 2016年1月19日)



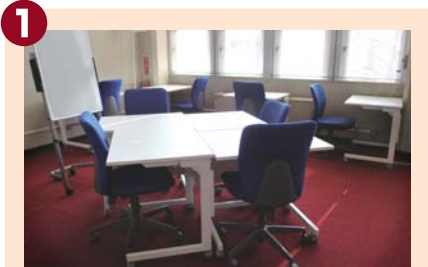
左から、山中きりんさん、酒井明砂子さん

図書館からの報告

三到図書館3階にラーニング・コモンズ開設！



ラーニング・コモンズは学生のみなさんの主体的、能動的な学修を実現します。  
2016年4月より三到図書館の3階がアクティブ・ラーニングエリアとして生まれ変わりました。



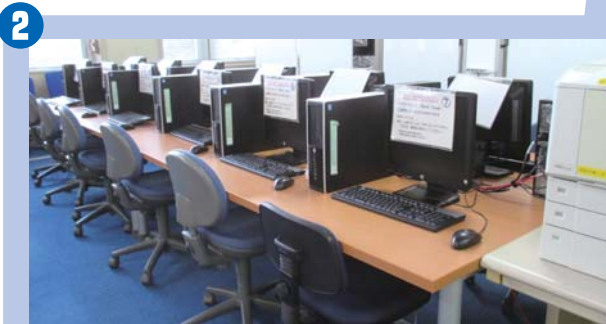
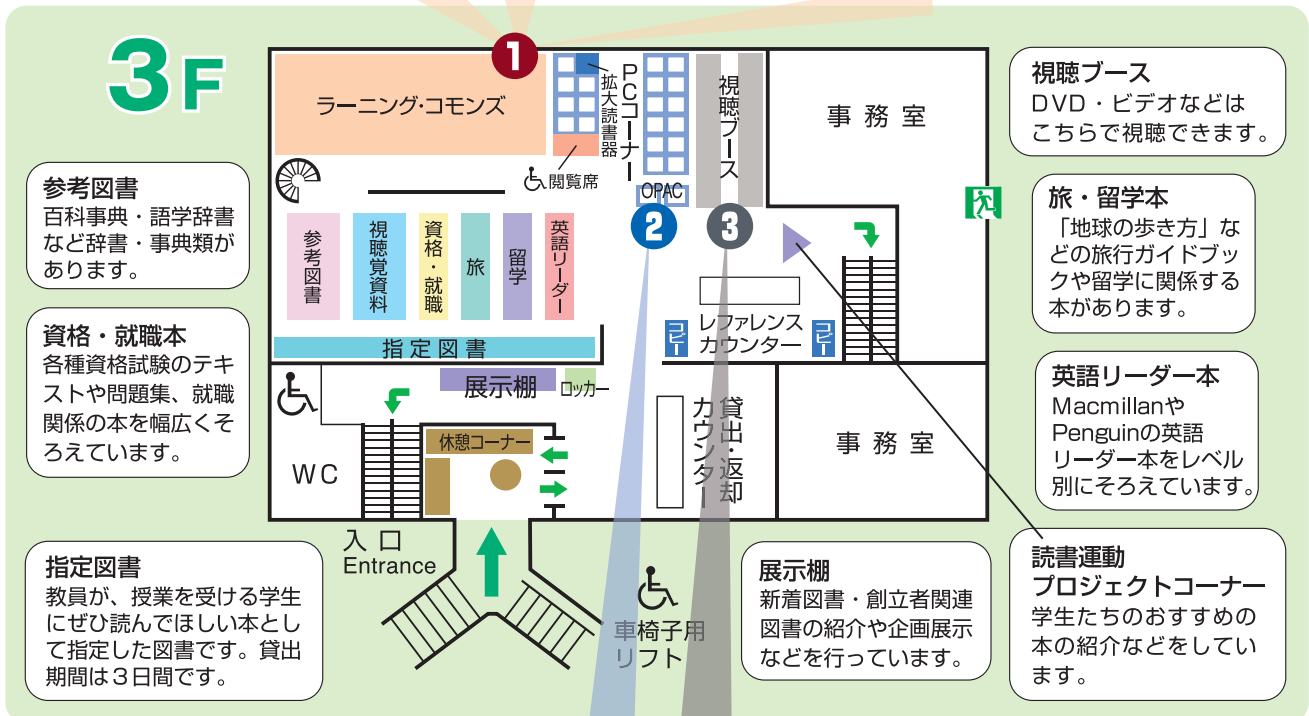
1 可動式の机、椅子、ホワイトボードを自由に組み変えて、グループディスカッション、プレゼンテーション等に利用できます。



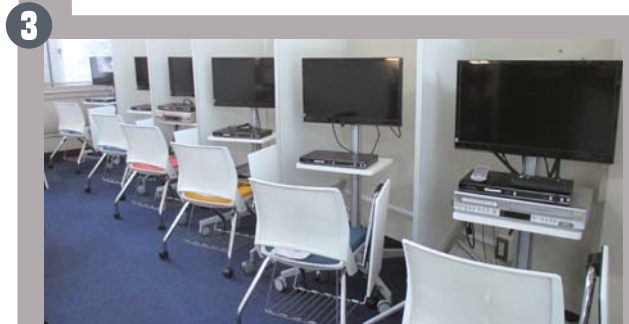
1 一人での利用も可能です。



1 新しくなった学修スペースで、独自の勉強方法をお試しください。



2 ●フリーアクセスPC…16台⇒インターネットやレポート作成などに！  
●ノート型PC…40台⇒図書館内であればどこでも利用可能。  
1階、5階の観覧席もご利用ください。



3 3階で映画が観られるようになりました！  
DVDプレーヤー…8台、VHS…2台揃えています。  
一人でも、友達と一緒にでもお楽しみください。

フリーアクセスPC、ノート型PC、DVDやVHSをご利用の際は貸出カウンターにて手続きをしてください。

(図書館メディアセンター 部長 坐間 礼子)

図書館からのお知らせ

図書館オリエンテーリング報告とガイダンス案内



◇ 図書館オリエンテーリング報告 ◇

2015年度も5月に「図書館オリエンテーリング」を実施しました。図書館内の各所に掲示されているクイズに答えながら図書館を探検します。図書館にどんな資料があるのか、また、その資料はどこにあるのかなどがわかり、いつのまにか「図書館通」になります。

授業でどんなレポート課題がでて怖いものなし!になるのでは? 迷路のように思える図書館に親んでもらえたら幸いです。

以下は、オリエンテーリングに参加された学生さんの感想です。

図書館内をくまなく探せたので楽しかったです。本を探す問題は実際に探せたので新鮮でした。  
(リベラルアーツ学群3年)

最後の楽譜が大好きな作品だったので嬉しかったです!色々、場所も分かって勉強になりました。  
(芸術文化学群1年)



1年間使って大分使い慣れたと思っていた図書館ですが、まだまだ使えてない部分が多いと感じました。  
(リベラルアーツ学群2年)



◇ 文献探索セミナー ◇

図書館では、個人向けに、図書館案内、本の探し方、新聞記事・雑誌論文の探し方を紹介するセミナーを開催しています。2016年度は、その中で、学生サポーターによる図書館ツアーを行う予定です。先輩のアドバイスを参考にして図書館を勉強や友達との交流の場にしませんか?

詳細は図書館ホームページでお知らせします。

**図書館探検**  
図書館ツアーコース  
▶館内ツアーを体験しながら、図書館の資料と利用方法がわかるようになります。  
所要時間 40分

**本を探そう**  
OPAC 検索コース  
▶蔵書検索 (OPAC) での本の検索方法と、書架での探し方がわかるようになります。  
所要時間 40分

**新聞記事を探そう**  
新聞記事検索コース  
▶新聞記事のデータベースで記事を探せるようになります。  
所要時間 40分

**論文を探そう**  
雑誌論文検索コース  
▶雑誌論文のデータベースで論文の探し方がわかるようになります。  
▶他の図書館の利用方法等も案内します。  
所要時間 40分

(図書館メディアセンター 主任 矢部 知美)

● 編集後記 ●

大学生協の第49回学生生活実態調査 (2013年度) で、1日の読書時間が「0分」と答えた大学生の割合が初めて4割を越えた (40.5%) と話題になった。そして先日、第51回調査結果 (2015年度) が発表され、読書時間「0分」は45.2%と過去最高になったそうだ。しかし読書時間「30~60分」の大学生の割合は21.1%、「60分以上」も25.6%、計46.7%であり、この数値も少ないとは言えない。以前から私の周囲の大学関係者からは「読書の二極分化が進んだのではないか」という意見を聞くことが多かったが、ここ数年の調査結果から「大学生の読書の二極分化」がデータとして裏付けられたのではないだろうか。読書しないがゆえに学びと成長の機会を逃していると言うのはたやすい。しかし読書に踏み切るきっかけを見失っている学生も多いだろう。この春から桜美林で学ぶ学生諸君、読書のきっかけを見つけたいと思っているなら、ぜひ図書館に足を運んでほしい。見つけたいという思いが少しでもあれば、必ずどこかにきっかけが見つかるはずだ。(S)